

資 料 編

目 次

資 料 1	自閉児の特性	49
資 料 2	前回の研究内容の概要	50
資 料 3	自閉児にとってのQOL	51
資 料 4	意思伝達とは	52
資 料 5	「意思伝達の力」の基礎となるもの	53
資 料 6	見通しを持つ	55
資 料 7	伝え合う相手を意識するために	57
資 料 8	自閉児の伝達手段の選択の目安	58
資 料 9	指導場面を考える際の視点	59
資 料10	意思伝達の場面や対象を広げる	60
資 料11	コミュニケーション・サンプル	63
資 料12	生活スケジュール	64
資 料13	生活地図	65
資 料14	研究のまとめ	66
実践資料 1	N. T 児の諸検査結果	69
実践資料 2	N. T 児のコミュニケーション・サンプル	71
実践資料 3	N. T 児の生活スケジュール	73
実践資料 4	N. T 児の生活地図	74
実践資料 5	K. Y 児の諸検査結果	75
実践資料 6	K. Y 児のコミュニケーション・サンプル	76
実践資料 7	K. Y 児の生活スケジュール	78
実践資料 8	K. Y 児の生活地図	80
実践資料 9	A. N 児の諸検査結果	81
実践資料10	A. N 児のコミュニケーション・サンプル	82
実践資料11	A. N 児の生活スケジュール	84
実践資料12	A. N 児の生活地図	86

資料1 自閉児の特性

わたしたちは、先行文献を参考に、本校の自閉児たちの生活の姿から、その特性の幾つかを以下のようにまとめた。わたしたちは、これらの特性に直接的に働き掛け改善を目指すのではなく、特性を認めたり、考慮したりしながらアプローチの方法を探っていこうと考えている。

○ 相手の気持ちや立場を理解することが難しい。

自閉児は相手の気持ちや意図が分からないために、相手と相互的な関係を築くことが苦手である。そのため、社会のルールやマナーから外れた言動をしてしまうことがある。

これは、Baron-Cohenが指摘する自閉児の「心の理論の障害」に深く関与していると思われる。つまり、自閉児は「〇〇さんは、今〇〇と考えているだろう」というように、他人の心の状態を想定することが非常に難しい。

(例) クラスの友達がしかられているのに、ケラケラ笑っている。

(例) 暑い日に、周囲にいる知人を気に止めることなく、自分の分だけ冷蔵庫から出してジュースを飲んでいる。

○ 話し言葉がコミュニケーションの機能を果たしにくい。

自閉児は、単語の意味するものが分からなかったり、会話の流れや文脈を感じ取ったりすることが難しいために話し相手と意味を共有しづらい。また、身近な人でも話し言葉で意思を伝えることが難しかったり、相手に伝えることを意図していないように思われる使い方も見られたりする。

(例) 「弟の名前は？」の問いに「弟の名前は」と繰り返す。

(例) 場にそぐわないときに突然、コマーシャルのキャッチコピーを言い出す。

○ 同時に幾つものことを考えるのが難しい。

物事を全体的に見たり、多くの情報から必要な情報を取り出したりすることが難しいために、一つのことにこだわってしまったり、いろいろなことに気が散ってしまったりする。

(例) 部屋全体の掃除をするのに、一か所の汚れが気になって、そこがきれいになるまでは動けない。

(例) 電話をしながら、相手の名前や用件をメモすることができない。

○ 聴覚に対する視覚優位

聴覚からの情報は消えてしまったり、抽象的であったりするために自閉児にとってうまく判断・選択しにくい面がある。しかし、視覚からの情報は、残りやすく、また具体的であることなどから個人差はあるものの聴覚からの情報に比べ判断・選択しやすい。

(例) 道順、カレンダー、電話番号などを覚えるのが得意である。

(例) 言葉で「りんごとバナナのどちらが好き？」と聞かれ選択できなくても、具体物なら好きな方を選ぶことができる。

資料2 前回の研究内容の概要

1 教師のかかわり方

前回の研究でわたしたちは自閉児と相互理解を深めていくためには、自閉児が苦手とする人とのやり取りの経験を積み重ねる中において情動的なつながりを持てるようにすることが大切であると考え、かかわり手であるわたしたち教師の基本姿勢を下記のように整理した。

○ 子供に気持ちを向け、子供の気持ちを感じ取る

見える形で現れた行動のみに目を向けるのではなく、子供の気持ちや意図を子供の立場になって感じ取ろうとする態度を持つ。

○ 積極的に働き掛ける

自閉児の言動は意味が理解しにくいと、つい適切なかかわりを怠りがちになる。子供たちの興味・関心のある事物・事象を媒介にわたしたちの側から積極的に働き掛け、かかわり方を少しでも幅広いものにし、人への関心や人とかかわることへの興味を引き出していく。

また、その中で「待つ」という姿勢も大切にし、過度に侵襲的にならないようにする。

○ 子供に合わせる

子供と同じ場を共有しようという姿勢を持ち、子供の気持ちの変化に声や動作のリズムを合わせたり、子供の意図が達成されるようにかかわったりと、子供のわずかな反応も見逃さずにそれに合わせていく。

○ 信頼される存在になる

子供たちにとって「重要な他者」という存在になる。そのためには、子供から感じ取ったことに対して敏感に反応を合わせ、やり取りの経験を膨らませていく中で、子供たちに「自分はこの人に受け入れられている」と感じさせることが必要である。

2 子供の意思伝達の力を高める

自閉児自身の気持ちを伝えようとする力を高めることも必要であると考え「意思伝達の力を高める」ための手だてを探った。その中でわたしたちは、自分や他者についての理解を深めていく「社会的認知」の発達を促すこと、自閉児が自分の気持ちを伝えようとする「意思伝達の意欲」を高めること、自閉児を取り巻く環境を、子供たちの理解力に合わせて、分かりやすくすることの三つが重要であると考えた。

資料3 自閉児にとってのQOL

1982年の国際障害者年以來、わたしたちの社会ではノーマライゼーションの考え方が浸透してきている。障害児・者の生活者としての主体性を確保すべく「生活させる人」から「生活する人」へという自立観の大きな転換を示したものである。

また、その考えとともに近年、彼らの生活の質、あるいは人生の質（Quality Of Life）が問われてきている。これは、1950年にアメリカにおいて政治的スローガンとして作られた用語に端を発するといわれているが、1970年代になって、「一人の人間の生活全体、生涯にわたっての真の豊かさを求める」意味として、医療や福祉分野で注目されるようになってきた。

現在、知的障害者にとって、一般的にQOLを考える際、大事な要素として次のような領域を挙げていることが多い。

- ① 生活のリズム … 職場、施設、青年学級など一定時間携わる働く場、行く場所があること。
- ② 労働生活の質 … 職種が重労働、危険でない。給与、労働時間など労働条件が適性である。障害者への配慮がある。
- ③ 余暇活動 … 趣味・運動などをできる場があり、そこに仲間がいて、受け入れてもらえること。
- ④ 施設生活 … 管理・監督が必要最小限である。個別ニーズに応じた対応がある。プライバシーを尊重する。意思を尊重すること。
- ⑤ 人間関係 … 家庭・職場などにおいて本人が受け入れられ、話し相手や相談相手があり、情緒が安定する豊かな人間関係がある。

さらに、山田は「質の高い生活とは、量・質ともに一定以上の生活環境を保つとともに、生活者の満足感・充実感・生きがいとかがバランスよく調和された生活を言う」（1996）と述べ、生活していく上での気持ちの充実が大事であることを指摘している。また柚木も障害児・者の社会適応についてQOLの視点から「ただ、日常生活の技術や能力を付けていくのではなく、子どもが楽しみつつ生活拡大をはかる。指導・強制されるのではなく、自分たちのできることを自分たちで決定する」（1996）と生活者としての主体性を大事にすることを述べている。

わたしたちは、これからの時代を生きる自閉児たちにとって、『毎日の生活が楽しいと感じること』と、『自分で判断・選択して主体的に生活すること』は大切なことであると考えている。ただ、自閉児の場合、障害の特性として、周囲の状況を的確に把握したり、自分の気持ちを相手に分かるように表現したりすることが苦手なので、自分の思いのままに過ごすような、ある意味での「主体的な生活」が必ずしも「質の高いよりよい生活」になるとは限らない。やはり、周囲の人がその特性に応じたかわりを工夫するとともに、その子の力を高めていくことも必要と考える。

資料4 意思伝達とは

○ 「意思伝達」とは

『特殊教育諸学校学習指導要領解説—養護学校編（精神薄弱教育）編—』によると、養護・訓練の五つの柱の一つである「意思の伝達」の内容は以下のとおりである。

意思の伝達

- (1) 意思の相互伝達基礎的能力の習得に関すること。
- (2) 言語の受容・表出能力に関すること。
- (3) 言語の形成能力に関すること。
- (4) 意思の相互伝達の補助的手段の活用に関すること。

このように、「意思の伝達」とは「受容」と「表出」の両面があるということを明確にしている。また、「コミュニケーションの相手を意識し、場に応じて適切に意思の相互伝達を行う」という観点からこれらが示されており、その中には、障害の程度に応じ、様々な方法を用いて相互に意思を伝達し合うという内容が含まれている。

このようなことから、わたしたちは「意思伝達」を、「相手の意思を受け止めるとともに、自分の意思を相手に伝えること。」すなわち、「受信」と「発信」の相互的な作用としてとらえていくことにした。また、わたしたちは「意思伝達」とは、話し言葉に限られるのではなく、例えば、視覚障害者が点字を用いたり、聴覚障害者が手話を用いたりして相手と意思を伝え合うなど、表情、身振りを含めたあらゆる方法を用いて行われるものとする。大切なのは、その子供にとっていかに分かりやすく、伝えやすいかということであり、子供が相手と伝えたいという意欲を持ったとき、その方法を用いて伝え合うことができるということではないだろうか。したがって、一人一人の子供の理解に応じた伝え合う方法を探っていくことが必要であると考え

資料5 「意思伝達の力」の基礎となるもの

わたしたちは、自閉児の「意思伝達」の基礎となるものについて、自閉児の意思伝達上の課題から整理していくことにした。

見通しを持つ

わたしたちは、授業中、教師の話の聞いている様子もなく、ぼんやりしていたり、イライラして離席を繰り返したりしている子供を見掛けることがある。しかし、わたしたちは、自閉児が「教師の話の聞きたくない。」「活動に参加したくない。」からではなく、「教師が何を言っているのか分からない。」「何をすればよいのか分からない。」または、「この活動がいつまで続くのか分からない。」からであると考え。このように自閉児は、一日の生活の流れや活動内容に見通しが持ちにくいために、自分が今何をすればよいのか分からずに困惑してしまったり、不安定になってしまったりして、主体的に活動できないことが多い。また、そのような状況の下では、他者の働き掛けも予測不可能なものであるために、受け入れられないことも多いと思われる。さらに、場面や状況の意味が分からないために、相手の立場や伝えたいことを理解することも難しく、意思伝達が必要な場面で相手に伝えられなかったり、相手の言っていることが分からずに、十分にやりとりできなかったりするのではないかと考える。

そこで、自閉児に「今、何をすればよいのか」という見通しを持たせることで、情緒を安定させ、落ち着いて相手のかかわりを受け入れられるようになるとともに、場面や状況の意味が理解できることで、相手の立場や意図が理解できるようになると考える。更に見通しを持たせることで、自閉児が自分で考え行動できるようになり、そのことは、主体的な伝え合いにもつながっていくのではないだろうか。

伝え合う相手を意識する

わたしたちは、一人でいることを好んで働き掛けられるのを避けたり、人に伝えるよりも先に行動に移してしまったり、また、自分の関心のある話題だけを他者に話したりする自閉児の姿を見掛けることも少なくない。これは、自閉児が、人への関心自体が希薄で、他者の存在や感情を認知することが難しいからであると考え。このようなことから、自閉児の意思伝達の力を高めるためには、伝え合う相手を意識させる指導、人との関係を育てる指導が大切であると考え。対人関係の障害が重篤な自閉児であっても、人とかかわりたいという気持ちは育てていけるものと信じ、人とかかわり合う中で、相手を意識したり関係を深めたりすることができると思う。そこで、わたしたちは、自分や他者についての理解である「社会的認知」に視点を当て、その発達を促すために、子供が「人」や「物」に対して興味を広げ、「物」を媒介にして大人と様々な関係を持つことができるようになる前言語的コミュニケーション段階に学び、共同注意、模倣、

資料5-2

やりとり遊びを促す必要があるのではないかと考えた。

伝え合う方法を理解する

自閉児も、相手の働き掛けに対して何らかの反応を示したり、要求場面において、相手に自分の意思を伝えようとしている。しかし、相手の言っている話し言葉の意味が分からずにエコラリアを繰り返したり、「外で遊びたい」ということを伝えたいのだが、伝え方を知らないために、パニックや自傷を引き起こしたりというような様子を見掛けることが多い。そこで、わたしたちは、話し言葉に限らない一人一人の子供の特性を生かした伝達手段を探り、それを子供に獲得させていくことで、自閉児も相手の伝えたいことを理解しやすくなったり、自分が伝えたいことを相手に伝えやすくなったりするのではないかと考えた。そのことは、自閉児の相手と伝え合いたいという気持ちを引き出し、いろいろな場面においても相手と伝え合うことを可能にしてくれると考える。ところで、前に述べたように「意思伝達」には「受信」と「発信」の両面があるが、自分から頻繁に話し掛けてくる子供であっても、逆に話し掛けられると適切に答えられないというように、自閉児は「受信」と「発信」が不均衡に発達するとされている。したがって、子供にとっての「分かりやすさ」「伝えやすさ」の二つの側面から、伝え合う方法を探っていきたいと考える。

資料6 見通しを持つ

1 スケジュールを理解させる

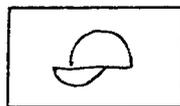
わたしたちは、これまでも時間割や日程、週の行事等を提示してきており、一日の流れや行事について見通しを持たせるようにしている。しかし、自閉児は特に、時間の概念を理解しにくかったり、記憶しにくかったりするといわれている。また、言葉に対する理解もそれぞれ異なっている。そこで、より一人一人の子供に応じたスケジュールを提示していくことが必要であると考え、個別のスケジュール指導を行っていくことにした。ここでは、具体的な指導の手だてについて述べていくことにする。

手掛かり

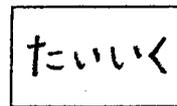
(例) 次は「体育」の授業であることを理解させる。



(具体物)



(絵・写真カード)



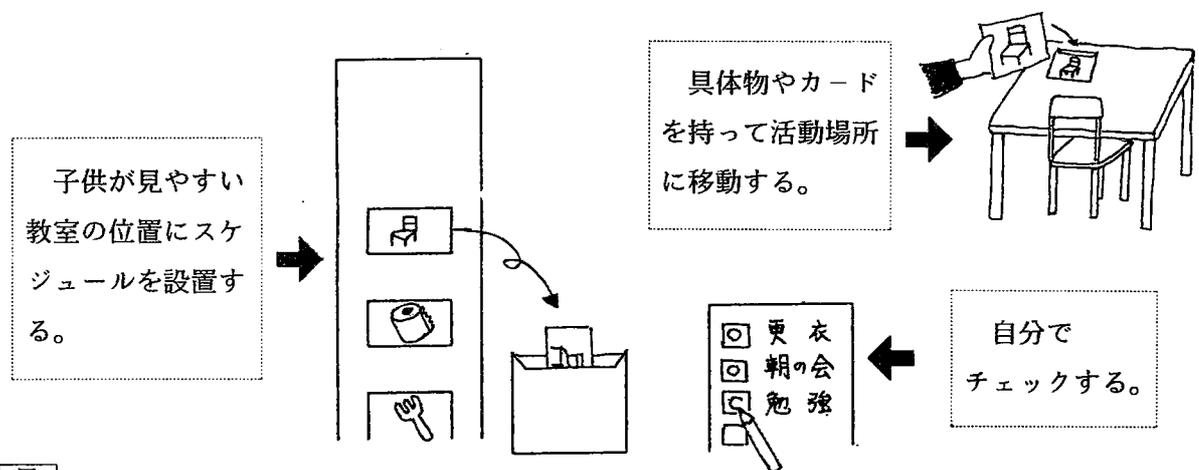
(文字カード)

8:30	更衣
9:00	朝の会
9:30	体育

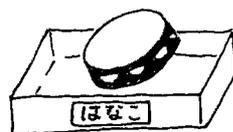
(予定表)

使い方

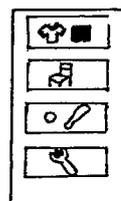
(例) 次は着席して勉強するということを理解させる。



量



※ 所定の場所に置く
(次の1つの活動だけ)



(半日)

月	火	水	木	金	土	日
クラブ	遠足		学部朝会		休み	休み

(一週間)

2 一つの活動の内容を理解させる

一つの活動の内容を理解させることについて、学校と家庭という2つの生活場面において指導を行ってきた。学校においては、中心的な活動である授業場面と、毎日の繰り返しが多い基本的な生活習慣の場面において取り組んできた。また、家庭においては、自閉児がただ受け身的に暮らすのではなく、家族の一員としての何らかの役割を担ってほしいということから、お手伝い場面と、卒業後は現在以上に余暇活動が重要になってくると考え、自由時間の活動についても取り上げてみた。具体的な指導については、以下のとおりである。

<p>ど こ で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動場所を一か所に決める。 ・ 座席に一人一人の子供の名前やマークを付けておく。
<p>何 を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の興味・関心や課題、保護者のニーズに応じて活動を用意する。 ・ 活動のレパートリーの中から、写真や具体物等の手掛かりを基に活動を選択する場面を設定する。 ・ 活動が始まる前に活動内容を明示する。 ・ 習慣化できることについては、毎日同じ時間に行うようにする。 ・ 一目見て何をすることが分かるような教材・教具を工夫する。 ・ 学習材料は一か所にまとめてかごや箱に入れ、マークを付けておくようにしてそのマークを手掛かりに自分で活動の準備ができるようにする。 ・ 発問する際は、子供が分かりやすいような視覚的な手掛かりを添える。 ・ 活動への集中を妨げないように、環境を整理する。
<p>ど の よ う に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の手順を決める。 ・ 活動の手順を手順表で示すようにする。 ・ 活動の流れを「左から右」「上から下」というように一定にする。 ・ 一目見てどのようにするのが分かり、子供ができるだけ主体的に活動できるように一人一人の子供に応じた教材・教具を工夫する。
<p>ど の く ら い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に応じて時計やタイマーを活用する。 ・ かごの中の材料がなくなったら終わりにしたり、できた分だけシールなどをはり目標まであとどれくらい分かるようにしたりして、視覚的な手掛かりを基に子供が「終わり」までの見通しが理解できるようにする。

資料7 伝え合う相手を意識するために

○ 共同注意について

- ・ ブルーナー（1983）は、共同注意の段階を、①母親が興味のある物などを提示し、子供の注意を喚起する段階、②8～10か月ごろ大人が見ている物を子供も見ることができるようになる段階、③子供が自発的に指さし、提示などの身振りや発声によって、他者の注意を喚起できる段階という三つに分け、初期の言語獲得に重要な役割を果たしていることを指摘している。

長崎（1996）は、アイコンタクトから母親の視線を追う追随注視が成立し、その結果共同注意が成立することを述べ、アイコンタクトや共同注意によって子供は人・物の関心対象世界を拡大し、対人認知や言語獲得のための重要な基盤を形成するとしている。

○ 模倣について

- ・ ピアジェ（1962）は、「他人が模倣すると乳児の注意と身体の動きが増加する。」と述べているが、自閉児の場合でもその行動を模倣してみたところ、社会的応答性（触る、見つめる、音声ジェスチャーなど）と集中が増加を示すという（ドーソンら、1984）。自閉児の表情、発声などの模倣や同じおもちゃを使っただけの同時並行模倣などは、自閉児にとって予測しやすい反応であり、注意行動を促すものとなる。また、自閉児の行動を模倣することは、自閉児が相互作用を開始する立場に位置することになるので、他者とやり取りを経験するよい機会となる。

○ やり取り遊びについて

- ・ ホブソン（1989）は、「相互的な対人関係を通じた人は初めて自他の世界の区別を認識することができる。大人を初めとする他者とのやり取り遊びを交わす過程で、他者を意識し、他者を通して自己なるものを自覚する。」と言っている。

○ 社会的認知について

- ・ 自閉の人々に見られる行動パターンを説明しようとする最近の試みによれば、言語とコミュニケーションの障害も結局は、その根底にある社会的認知の障害の反映にほかならない。この前提に立つならば、介入は表層的行動を扱うだけでなく、根底にある問題にも立ち向かわなければならない。換言するならば、臨床家は、言語学習の基礎となる社会的認知能力にねらいを定めて、その育成に重点的な努力を傾けるべきである。社会伝達的な基礎の育成をおろそかにして、言語や話し言葉をただ教え込もうとするのは長い目で見れば決して賢明な策ではない。基礎技能の育ちがなければ、真の意味でのコミュニケーションの発展は達成されがたいのである。

資料8 自閉児の伝達手段の選択の目安

話し言葉を有していなかったり、たとえ有していても伝達手段として有効に使えなかったりすることが多い自閉児のコミュニケーションを考えると、一番表現しやすい伝達手段を見いだして、その使い方や使う場面を指導したり、現在有している話し言葉を場面に応じて適切に指導をしたりすることが大切になってくる。そこで具体的にどのような手続きや方法で指導をしていけばよいかを考えてみたい。

◆表 伝達手段の選択の目安

伝達手段	選択の目安
①実物・動作 <small>※実物を使って示す 欲しいものを指さ す、連れて行くな どの直接的行動</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物に何らかの関心を示し、物を機能的に用いる。 ・ 人にある程度関心を持っている。
②絵・写真	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵や写真に興味がある。 ・ 絵や写真の表す意味を理解できる（絵や写真と実物のマッチングができる）。
③サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある程度、動作模倣ができる。 ・ 動作とその動作の意味を理解できる。
④文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書かれた文字・単語の意味が理解できる（文字・単語と実物のマッチングができる）。
⑤話し言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し言葉を持っている。 ・ エコラリアがある。

上の表はE・ショプラーらのコミュニケーションシステムを参考にしたものである。①～⑤は厳密ではないが順序性があると思われる。わたしたちは、話し言葉のような目に見えず、意味付けが難しいものに限らず、できるだけ彼らの能力を十分に発揮できるような伝達手段を見出し、まずは信頼関係を大切にしながらしっかりと受け止めて、自閉児に伝わったという喜びを十分味わわせ、その経験を積み重ねていくようにしたい。

例えば子供がジュースを飲みたい場面で考えてみよう。「ジュース」と言えなくてもコップを相手に持ってくることを教える。これができれば①のコップは気持ちを伝えるために非常に有効な手段になると言える。更に①だけでなく、②の提示された水とジュースの絵カードの中からジュースを選ぶ、などいくつかの伝達手段の流れの中で同時に使わせることで、より確実に相手に伝わるようになる。動作の意味を理解できる子供であれば、①と③「ちょうだい（欲しい）」のサインを添えることも可能である。

また自閉児の中にはエコラリアがある子供も多いので、それを有効に使ってみてはどうだろうか。「ジュース」と模倣させたり、「ジュースをください。」という話し言葉を大人がその都度添えて渡したりして、言葉を意識させたい。子供によってはそれを繰り返すことで「ジュース」と発語できるようになったり、大人が「ジュースを……」と言うと続けて「ください」と言えるようになったり、と話し言葉によるかわりもできるようになる。この場合も流れの中で①と同時に使うことで、伝わる確実性が増してくる。

より多くの人に分かりやすい伝達手段へと高めていくことも考えながら、状況に合った効果的な伝達手段の獲得を目指していきたい。また一種類以上の手段を学習できる子供には、より伝えやすくするために、いろいろな伝達手段を同時に使わせていきたい。

資料9 指導場面を考える際の視点

効果的な指導を展開するために

* 自閉児が自発的に伝えてくるときの場面に着目する。

日常生活の中で自閉児が自発的に伝達してくる場面はないか観察し、その場面を使って指導する。どんな意図や目的があって伝達しようとするのかを見てみると、自閉児の場合、「要求」が多いようである。したがって要求場面を使って指導を始めるのが子供にとって受け入れやすいと考える。

◇ 自閉児の興味・関心があるものに視点を当ててみよう。

① 好きな（食べたい）食べ物は何だろう？

→「スプーンを持って『アー』と言ってるけど、ごはんが食べたいのかな。それともハンバーグが食べたいのかな。」

② 好きな（したい）遊びは何だろう？

→「K君が膝に座ってきたけれど、わらべうたを歌ってほしいのかな。それともくすぐってほしいのかな。」

「帽子を持って『アッ』と言ったけれど、S君、外に行きたいのかな。プレイヤードを指さしてくれると分かるんだけど。もしかして、校庭に行きたいのかな。」

③ 支援してほしいことは何だろう？

→「I君から手をつかまれたけれど、この牛乳にストローがさせないのかな。それとも牛乳を飲みたくないのかな。」

* 伝達が必要な場面を意図的に設定する。

① 欲しいものを獲得しようとする行動を一時抑えたり、進行中の行動を一時抑えたりして、要求を伝えてくるのを待つ。

《具体例》

- ・ いつも読んでいる絵本を、わざと手の届かない棚の上に置いてみる。
- ・ 給食時間子供が一人でお代わりをしようとするとき、一旦止めて皿を持ってくるようにさせたり、教師の「ください」の言葉に合わせて手を取って一緒にサインを教えたりする。

② 自分の意思を明確に表せるように、日常生活のあらゆる場において、幾つかの選択肢の中から自発的に選ぶ状況をつくる。

《具体例》

- ・ ビデオが好きな子供に、二つのビデオを提示して見たい方を選ばせる。
- ・ 毎日の買い物の中で、食べたい方のお菓子、あるいは野菜を選ばせる。
- ・ 子供が苦手とする学習の後に自由時間を設定し、活動前にスケジュール表の中に自分がしたい遊びのカードを選んでやらせるようにする。

資料10 意思伝達の場面や対象を広げる

1 家庭生活

家庭は現在、そして、将来にわたって子供たちの生活の基盤となる場所であり、また、家族とのかかわりを通して、伝え合う関係の基盤が作られる場でもある。わたしたちは、自閉児が家庭の中で受け身ではなく主体的に活動し、家族と楽しくかかわっていくような生活を送ってほしいと考えている。しかし、自閉児の中には何をすることもなく指示待ちになってしまったり、家族に自分の気持ちがうまく伝えられなかったり、こだわりや奇声といった行動のために家族との関係がうまくいかなかったりしている子供も少なくない。わたしたちは、自閉児が自分の気持ちや必要な事柄を伝えられるようになることで、家族の中で気持ちの安定を図ることができるとともに、より主体的に活動することができるのではないかと考えた。また、自閉児が家族に意思を伝える際には、自閉児が自己選択したり、自己決定したりしていく場面を設定することも大切である。特に、電話やメモが利用できるようになることは大変便利であり、保護者との話し合いでも話題にあがることが多い。そこで、電話やメモを用いて、必要な事柄を伝えたり、話題を広げるための手掛かりにしていくことも必要であると考えた。以下は具体的な指導例である。

- 自分の気持ちや要求を伝える。
 - ・ ドライブに行きたいときに、車の写真カードを提示する等、子供に応じた伝達手段を用いて伝えるようにする。
 - ・ 幾つかの選択肢から自分で選ぶようにする。週末に行きたい場所を写真カードで選ぶ等、選択するための情報を与えるようにする。
- 必要な事柄を伝える。
 - ・ 外出先から家に電話し、居場所や帰る時間を知らせる。外出するときは、家の電話番号を書いたカードを携帯し、確認しながら番号を押すようにする。また、「〇〇にいます。今から帰ります。」など伝える内容を決めておくようにする。
 - ・ 家族の留守中、電話や来客の伝言を聞くときは、「だれから」「だれに」「どんな用件で」という枠を作ったメモを用意しておき、そこに記入するようにする。
- 学校や職場であったことを伝える。
 - ・ 学校や職場であったことをメモや日記に書いておき、それを見ながら話をするようにする。

2 地域生活

自閉児の余暇を含めた将来の生活を考えると、家庭や職場等の限られた人だけでなく、積極的に地域に出掛け、様々な社会資源を活用しながら、いろいろな人とかかわっていくことが大切であると考えた。しかし、場面や状況の意味を理解するのが難しかったり、話し言葉が伝達手段として機能しにくかったりする自閉児にとって、日ごろあまり接していない相手との意思伝達には、いろいろなつまずきの要因があると思われる。そこで、自分の意思を伝える際にお

いて、より多くの人に理解されやすい伝達手段を持っていたり、場面に応じた対応の仕方を身に付けていたりすることが必要であると考え。また、自閉児は自分の行動が周囲に及ぼす影響を想像しにくいためしばしばその行動が、社会の中で受け入れられないものとしてみなされてしまうことがある。したがって、社会のルールについても教えていくことが必要であると考え。以下は具体的な指導例である。

- 余暇活動を楽しむ。
 - ・ 余暇活動において、交通機関や公共施設（図書館、水族館）、ファーストフード店、レストラン、レンタルショップ等を利用する。
 - ・ お金の価値が理解できていない場合は、必要な金額をカードでマッチングさせたり、お札を出しておつりをもらうような習慣を付けたりする。
 - ・ 商品名やサイズ、数量等必要な事柄を書いた注文カードを提示するようにして、買い物や食事ができるようにしていく。
- 社会のルールを理解する。
 - ・ 「～をしてはいけない。」でなく、「それでは何をすればよいのか。」ということを示すようにする。
 - ・ 社会のルールについては、早い段階から適切な行動の仕方を教えていくようにする。

3 職 場 生 活

現在、QOLとともに、障害者のQOWL（Quality of Working Life 働く生活の質）が問われてきている。これは、障害者が他者とともに生き生きと働く姿を目指していくものである。自閉児もまた、賃金の有無にかかわらず、何らかの形で働く生活に従事していくことになる。わたしたちは、自閉児がただ与えられた仕事をこなすだけでなく、働く喜びや楽しさを感じながら、生き生きと働く生活を送ってほしいと考える。一般に自閉児は、見通しが持てる慣れた活動であれば、丁寧に集中して取り組めることも多い。しかし、一方で作業の材料がなくなってもぼんやりしていたり、いつまで作業が続くのか分からずにイライラしたりしている姿も見られる。そこで、まず、自閉児が作業に見通しを持つとともに、周囲の人の指示を理解したり、必要なことを周囲の人に伝えたりすることで、落ち着いて作業に取り組むことができるようになり、働くことの達成感や満足感を味わい、自尊心や生きがいにもつながっていくのではないかと考える。また、あいさつや返事という基本的なマナーを身に付けることで、働く場での人間関係をより良いものにしていきたい。以下は具体的な指導例である。

- 必要な指示を理解する。
 - ・ 「どこで」「何を」「どのように」「どのくらい」という情報を子供の理解に応じて視覚的な手掛かりとともに伝え、作業への見通しを持たせる。
- 必要な事柄を伝える。
 - ・ 必要な場面で、「終わりました。」「材料がありません。」「休ませてください。」「手伝ってください。」という事柄を相手に伝えるようにする。
 - ・ 話し言葉での意思伝達が難しい子供については、自分から伝えやすいように身振りで示したり、具体物やカードで提示したりする等、伝えるための方法を獲得させる。

資料10-3

○ あいさつや返事をする

- ・ 「おはようございます。」「ありがとうございます。」「お疲れさまでした。」等のあいさつや返事をする。初めは、エコラリアを活用し、あいさつや返事をする場面が理解できるようにしていく。

資料11 コミュニケーション・サンプル

コミュニケーション・サンプルは、子供の現在のコミュニケーションの様子を知るために実施するもので、言葉をコミュニケーションの機能としてうまく用いられなかったり、身近な人にも自分の意思を伝えにくかったりする自閉児が、「誰に」「何を」「どのような方法で」伝えようとしているのかを分析し、指導に活かそうとするものである。

相手に伝えることを意図して発せられた言動を記録し、それらについて複数の人間で分析する。

- 実施に当たって
 - ・ それぞれの生活場面での様子を知るために、学校、家庭などで指導開始時に記録する。
 - ・ 分析の際の参考になるので、VTRで記録しておく方が良い。
- 分析の観点
 - ・ 何を伝えようとしているのか。
 - ・ どんなコミュニケーション手段を用いるか。
 - ・ かかわろうとする相手は誰か。
 - ・ 話題はどんなことか。

記 入 例

記入者 (○ ○)

氏名	○. ○	平成○年○月○日	機 能								
			意図不明	要 求	注意喚起	拒 否	説 明	情報提供	情報請求	感情表出	慣用語
所見	・ 登校時から、給食までの言動を記録した。情緒的には安定していた。										
	場 面 や 状 況	言 動									
	① 朝、教室に入る時に担任の方を向いて	「おはよう」									○
	② 休み時間に棚の上においてある絵本に気付き、それを担任に取ってほしくて	手をつかんで、棚の方へ引っ張っていく。		○							

- 機能について

意 図 不 明	何か伝えようとしているが、意図を読み取ることができない。
要 求	何か欲しい。あるいは何かをしたいという要求。
注 意 喚 起	自分に関心や注意を向けようとする事。
拒 否	相手の要求を拒否し、それとともに当惑や不安を示すこと。
説 明	自分自身や相手のこと、特定の物や状況について知らせたり、報告したりすること。
情 報 提 供	自分が知っていることで、相手がまだ知らないであろうことを知らせること。
情 報 請 求	自分が必要としていることを知りたい、教えてほしいと要求の意思表示をすること。
感 情 表 出	気分が良いとか悪い、あるいは好き嫌いを表現すること。
慣 用 語	日常的なあいさつを動作や言葉で伝えること。

※ 形式及び機能の分析については、先行研究を基に、本校の子供たちに応じて一部変更した。

資料12

生活スケジュール

生活スケジュールは、大きくは子供の現在の生活の流れを知るために実施するものである。これによって、その子供が一日を通してどんな生活をしているか、その中で生活上の課題と家族が感じているのはどんなことかを知ることができる。また学校と家庭が、それらについて共通の認識を持つことができるので、指導が進めやすくなる。

さらに、これを基に保護者との話し合い、生活の流れの見通しはどの程度持てているか、個々の活動で見通せないことがあればその原因はどんなことか、などについて情報を提供し合い、方向性や目標なども見い出していくことが可能になる。

また、自閉児の場合、自由時間の過ごし方が問題になることが多いので、休日や余暇の過ごし方についてももしっかり把握しておきたい。

記入例

〇〇部 〇年 名前〇〇〇〇 〇月〇日現在 記入 (〇〇)

時 間	活 動	現在の状態 (援助の程度)	課 題
3:00 4:00 5:00 6:00	就寝中 起床 顔洗い 朝ごはん 歯磨き 着替え	<ul style="list-style-type: none"> 夜中にときどきトイレに行くことがあり、親を起こす。 朝は言葉掛けすれば自分で起きてくる。 ごはんを食べてから、登校までの流れは分かっている、言葉掛けだけで自分です。 歯磨きはときどき親が仕上げをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べようとしないで時間がかかることがある。 特定のテレビ局の天気予報を見てからでないと登校しない。
7:00 8:00 9:00 10:00	登校	<ul style="list-style-type: none"> 父親が車で送る。 	<ul style="list-style-type: none"> バスで通学できるようになってほしい。

記入に当たって

- 現在の援助の程度を書く。
- 手伝い、身辺処理だけでなく、自由時間の過ごし方や支援の状況も書くようにする。

- 現在、困っていることや、将来できるようになってほしいことを書く。

※ 単に記入して、教師が指導の参考にするのでなく、記入後に保護者と話し合う機会を持ち、保護者の願いや家族全体の生活の流れ等も交えて詳しく知ることが必要である。その上で、これからの指導の方針を検討したいと考える。

資料13 生活地図

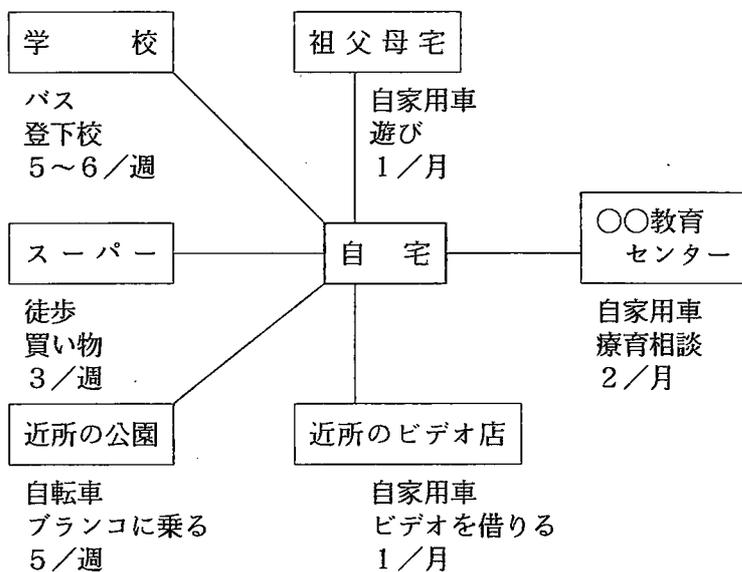
生活地図は、子供の現在の空間的な面から生活の過ごし方を知るために実施する。

これによって、子供が出掛ける場所、かかわる相手、出掛ける手段や頻度等が分かり、地域の中でのかかわりを知ることができる。

これを基に、保護者と話し合い、「今後どのような場所に行けることがその子供の生活を豊かにするか。」「一人で行って用件を済ませるためには何が必要か。」などを検討することができる。

また、一定期間を置いて調べれば、その子供の変容を知ることにもできる。

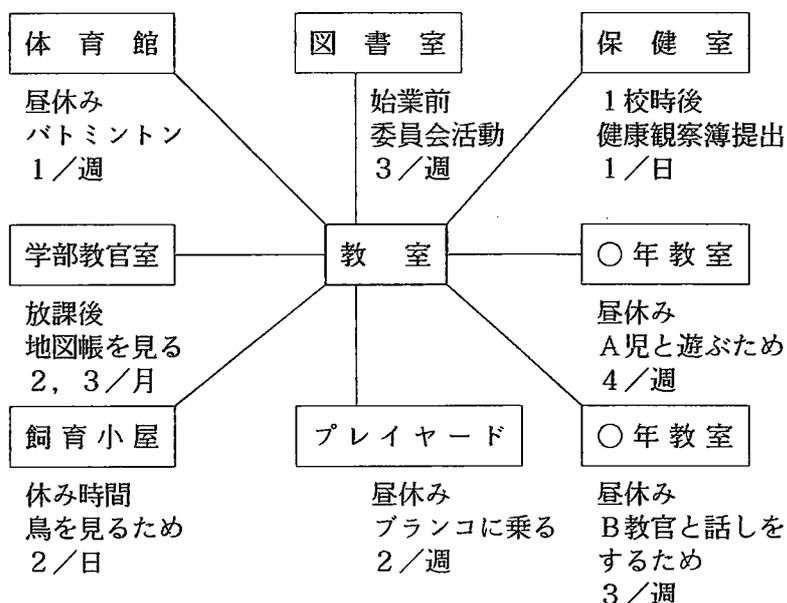
(家庭版)



☆ どんなことを記入するか。

- ・どんな手段で
- ・ " 目的で
- ・どのくらいの頻度で

(学校版)



☆ どんなことを記入するか。

- ・どの時間に
- ・何の目的で
- ・どのくらいの頻度で

資料14

研究のまとめ

1 「意思伝達の力」の基礎となるものについて

わたしたちは、自閉児の意思伝達上の課題から、「見通しを持つ」「伝え合う相手を意識する」「伝え合う方法を理解する」という三つの力を「『意思伝達の力』の基礎となるもの」と考え、それらを高めることで意思伝達の力も高まっていくと考えた。

「見通しを持つ」ということについては、理解の程度は異なるものの3事例とも、時系列的な生活の流れや活動内容に見通しが持てないため、情緒が不安定になってしまったり、指示待ちになってしまったりという事例であった。しかし、子供に応じて見通しを持たせるような取り組みをしたことにより、落ち着いて過ごせるようになり、相手からのかかわりを受け入れたり、相手の言うことを理解したりして目的的に行動する様子も見られるようになってきた。事例Ⅰにおいては、家庭と学校においてスケジュール指導を行ったが、自分で活動内容が書かれたスケジュールカードを操作して、スムーズに次の活動に移行できるようになった。また、急な予定の変更があっても、スケジュールを見ることで活動を予測できるようになり、以前のように混乱することなく活動に取り組めるようになった。事例Ⅱにおいては、家庭において「手伝い→バスを見に行く→夕食」というスケジュールを確立させたことで、時系列的な見通しが持てるようになり、家庭にいる間中、家族を悩ませていた「バスの通過時刻へのこだわり」はあまり見られなくなってきた。そのことによって、自分から手伝いに取り組んだり、家族に話し掛けたりするようになり、これまでの家族のストレスも軽減されてきた。事例Ⅲにおいては情緒が不安定なために活動が滞りがちな本児に対して、写真カードによって次の活動を知らせるという取り組みを行った。しかし、写真カードを示しても活動に取り組めないことが多かった。これは、子供の生活のペースに合っていないということもあるかと思われるが、一つには子供が写真カードが次の活動を示しているということを理解できなかったからではないかと考える。子供に具体物を示すと次の活動に取り組めることもあり、子供の理解に応じた活動の提示の仕方を考慮していく必要があると思われた。

「伝え合う相手を意識する」ということについては、子供と活動と一緒にいることを通して人とかかわる楽しさを味わわせたり、人を意識させたりするような取り組みを行ってきた。事例Ⅰにおいては、休み時間に担任が本児と一緒にバドミントンを行うようにしたが、だんだん担任を意識してシャトルを返すようになってきたり、ラリーが続くと笑顔が見られるようになってきた。そして、休み時間になると担任の所へ絵カードを持ってきて、「バドミントンをしたい。」と要求するようになってきた。事例Ⅱにおいては、余暇活動の充実という視点から、休み時間に友達とカラオケを行う場面を設定した。集団の中ではぼんやりしていることの多かった子供が、新曲の名前を友達に尋ねたり、先陣を切って「ぼくが歌う。」と主張したりするようになってきた。事例Ⅲにおいては、まず、身近な人への意識を高めるということで、母親や担任と一緒に歌遊びをしたり絵本を見たりするようにした。母親に対しては、自分を受け入れてくれる存在としての意識が確立されているが、担任に対しては、まだ特定の遊び以外はかかわりそのものを楽しめているとは言えないようである。しかし、困ったときには担任を頼った

り、好きな歌遊びで担任の動きを模倣したりと、少しずつ担任への意識が芽生えてきつつある。子供の生活年齢から主にかかわる対象は異なってくるものの、3事例に共通しているのは、その子供の興味・関心を大切に、子供が活動自体を楽しめるものを媒介にかかわっていったことで、相手を「楽しい存在」「安心できる存在」と認識するようになり、相手と伝え合いたいという気持ちを引き出していったということである。

「伝え合う方法を理解する」ということについては、3事例において、それぞれの子供に応じた伝達手段を探っていった。事例Ⅰについては、伝えたい内容を表した絵カードと本児が現在有している話し言葉をわたしたちが併せて用いたことで、相手の意図が分かるようになり、混乱することなくそれに適切にこたえる様子が見られた。また、これまで子供の中で混乱していた話し言葉の意味が整理されるようになり、適切に話し言葉を用いることも増えてきた。事例Ⅱにおいては、メモを店員に提示することで、CDレンタルショップを利用することに取り組んだ。しかし、そのような場面においては、希望のCDが貸出中であるなど、予想外のことが多く、臨機応変に対応したり、相手に気持ちを伝えたりすることが苦手な子供にとっては、戸惑いや混乱もあったようである。そのような状況もあらかじめ想定した上で、メモやカードを準備しておくことが大切であると思われる。事例Ⅲにおいては、要求場面において写真カードと話し言葉で要求を伝えるようにしたが、要求を伝える前に自分で行動に移してしまうことが多かった。子供が必然性を感じるような場の設定を考慮していく必要があった。3事例を通して、一人一人に応じた伝え合う方法を考えることは、子供が相手の意図を理解しやすくなったり、自分の意図を相手に伝えやすくなったりして、自分の気持ちを満たし、意思伝達の意欲を高めていくことが分かった。

以上のように「『意思伝達の力』の基礎となるもの」を高める指導に取り組んできた結果、わたしたちは、子供の相手と伝え合いたいという意欲を高め、何らかの方法を用いて相手と伝え合おうとする子供の主体的な姿勢を感じるできるようになった。また、わたしたち教師や保護者が子供にとっての分かりやすさという観点からかかわり方、伝え方を工夫するようになったことで、子供も自分の気持ちや意図を表現したり、伝えたりすることができるようになり、子供の気持ちが以前より分かるようになったと感じることができた。

ところで、「『意思伝達の力』の基礎となるもの」である「見通しを持つ」「伝え合う相手を意識する」「伝え合う方法を理解する」という三つの力については、厳密な順序性はないと思われるが、見通しを持ったことで、情緒が安定し、相手を意識する余裕が出てきたり、伝え合う方法を理解して相手の意図が分かったことで、活動への見通しが持てたりするなど、それぞれが関連し合いながら高まっていくことが分かった。

2 意思伝達の場面や対象を広げることについて

わたしたちは、わたしたち教師と子供という限定された関係だけでなく、子供の将来の生活を考えると、より多くの場面で多くの相手と伝え合うことが大切であると考え、意思伝達の場面や対象を広げていくための取り組みを行ってきた。

事例Ⅰにおいては、ファーストフード店での注文に取り組んだが、注文に必要な事柄が書かれたカードを店員に提示することによって、自分で注文して食事を楽しむことができるように

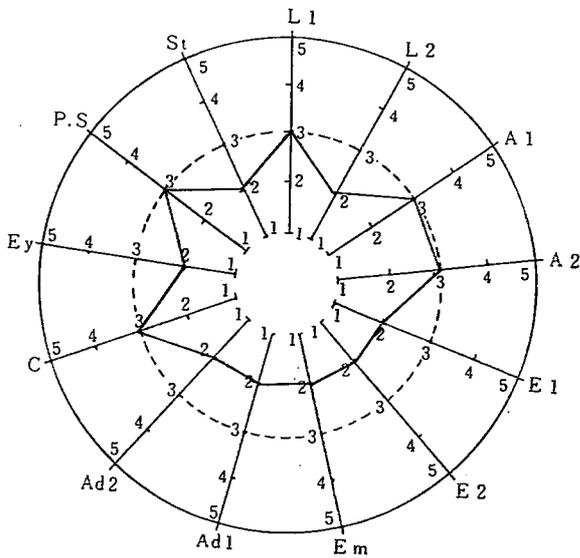
なった。カードは保護者と取り組みの様子を話し合いながらメニューを絞ったり、注文に必要な事柄を書き加えたりした。子供がよりよく伝えることができるように、カードの内容を変更していくことも必要であった。事例Ⅱにおいては、子供の余暇活動としてCDレンタルショップや写真屋の利用に取り組み、自分の興味・関心を満たし、生活範囲を大きく広げることができた。また、放課後や休日にボウリングなどの友達同士の活動も試みてきたが、自分から友達を誘ったり、活動を計画したりというのは難しく、このような活動については将来においても家族や周囲の人の支援が大切になってくると思われる。事例Ⅲにおいては、母親には要求を頻繁に伝えたり、一緒に絵本を見ることを楽しんだりしているので、その関係を広げ、子供にとって家族の次に身近な存在であると思われる担任との関係を深めていくことにした。子供からの発信を大切にしたい働き掛けを行ったことで、まだ、限定された場面ではあるものの、困ったときに担任を呼んだり、一緒に遊んでくれるよう要求したりということが増えてきた。

以上のように、事例において「意思伝達の場面や対象を広げる」指導を行ってきた結果、限られた相手だけでなくいろいろな場面で相手と伝え合う様子が見られるようになってきた。また、放課後や休日の活動が充実し、生活範囲を広げることができるようになった。しかし、一方で、身近な相手と異なり、日ごろあまり接したことがない相手との意思伝達においては、自閉児にとって予測できないことや、理解できないことが生じることも多く、自閉児がうまく対応できない場面もあったようである。また、知らない異性に近づいたり、触れたりするような行動も見られた。地域においてかかわっていく相手に対しては、子供が戸惑うような場面について情報を伝えておくなど、理解と協力を求めていくことも必要だった。さらに事前に、それらに対応できるような手だてを十分行った上で大人と一緒に練習しておくことも必要であった。

ところで、このような取り組みを通して、保護者から「これまでは進路のことだけを考えていたが、余暇活動を充実させていくことも子供の将来にとって大切であることが分かった。」「今まではできないと決めつけていたが、自分たちの手だて次第でできることも多いということに気付いた。」という声が聞かれるようになり、保護者の意識の変容も見られたようである。

実践資料1 N. T児の諸検査結果

1 NAUDS～名大式自閉症の発達尺度（平成9年5月実施）

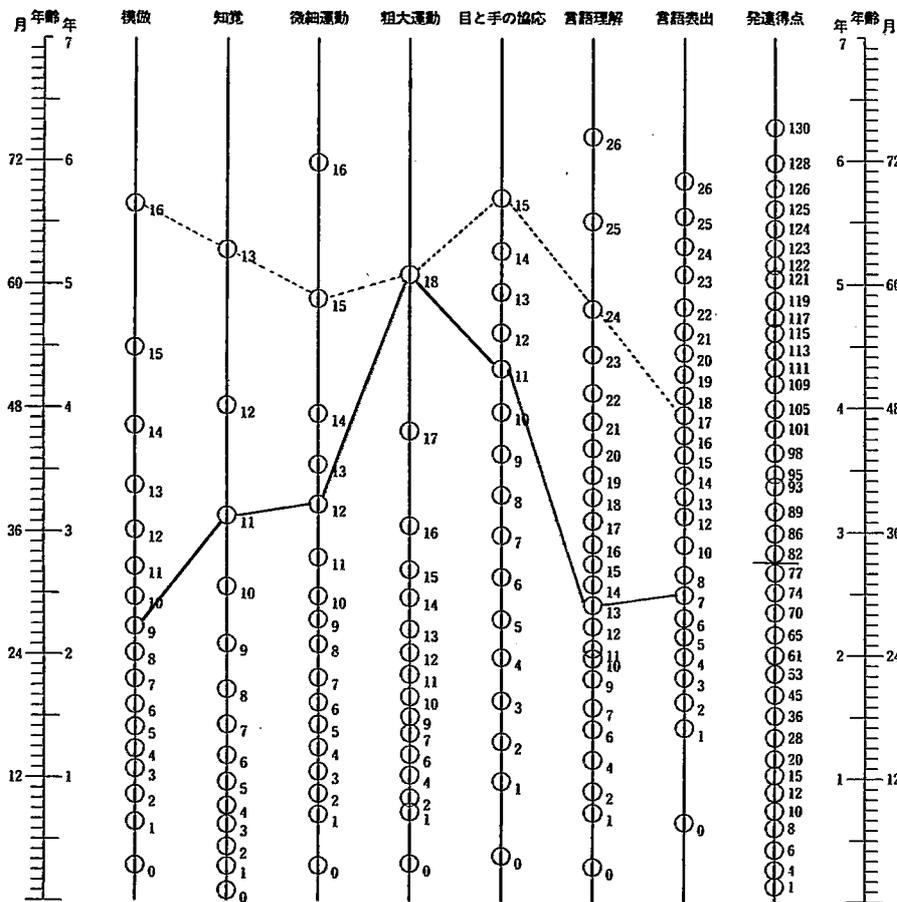


- L 1 : 言語表現様式
- L 2 : 言語伝達機能と病理現象
- A 1 : 自発性とエネルギー
- A 2 : 目的的行動と統制
- E 1 : 固さと感情の分化
- E 2 : 感情の統制と連続性
- Em : 感情の理解と関係の連続性
- Ad 1 : 大人への働きかけと狭さ
- Ad 2 : 大人への働きかけに対する反応と狭さ
- C : 子供（仲間）との関係
- Ey : 視線
- PS : 同一性の保持
- St : 常同行動

実践資料 1-2

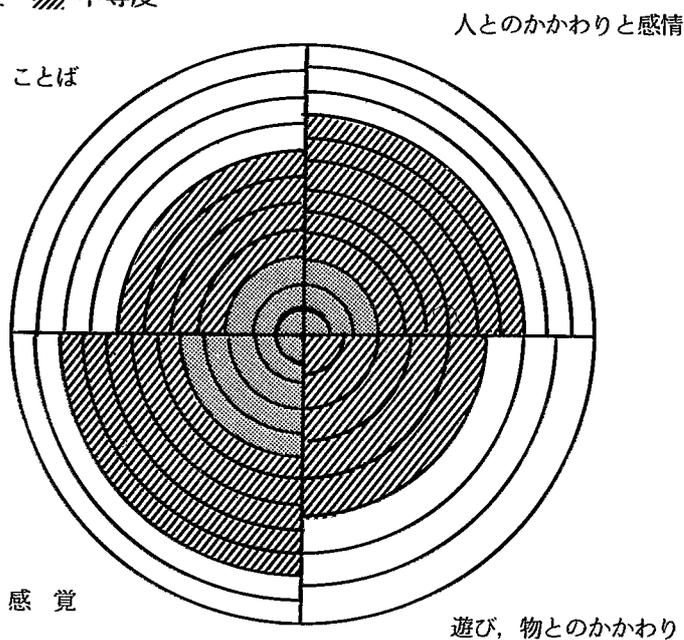
2 PEP-R～新改定版「自閉児・発達障害児教育診断検査」,(平成9年5月実施)

【発達尺度プロフィール】



【行動尺度プロフィール】

■ 重度 ▨ 中等度



実践資料2 N. T児の コミュニケーション・サンプル

1 家 庭

記録者(母親)

氏名	N. T	平成9年5月	機能									
			意図不明	要求	注意喚起	拒否	説明	情報提供	情報請求	感情表出	慣用語	
所見	1週間、記録をとってもらった。											
	場面や状況	言 動										
	① 昼食前に祖父に	手を引いて冷蔵庫まで行き「おじいさん、れいぞうこ～」		○								
	② 母親にいつもしている歌遊びをしてもらいたくて	手を出して「たたいて、つねって～(歌遊びの歌詞)」		○								
	③ 部屋にいる祖父に	トイレまで手を引いて行き「おじいさん、ハイ～」		○								
	④ 日曜日の朝に母親に	「城山(公園)、行きたいよ～」		○								
	⑤ 夕食時、母親に	空になった茶碗を差し出し「ごはんよ～」		○								
	⑥ 登校前、歯みがきを終えて母親に	「終わったよ～」						○				
	⑦ 学校でロッカー整理がある金曜日の登校前母親に	「ロッカー整理」								○		

実践資料2-2

2 学 校

記録者 (担任)

氏 名	N. T	平成9年5月	機 能									
			意 図 不 明	要 求	注 意 喚 起	拒 否	説 明	情 報 提 供	情 報 請 求	感 情 表 出	慣 用 語	
所 見	2日にわたって記録を取った。											
場 面 や 状 況	言 動											
① 登校後、教室に入っ てきて担任と目が合い	「おはようよ～」											○
② 朝のランニングを終 えて	担任にタオルを持っ てきて「汗をふいてく ださいよ～」			○								
③ 給食時、自分のごは んを食べ終わって担任 に	「ごはんよ～」			○								
④ 昼休み時間、担任の 所に来て	「じてんしゃ～」			○								
⑤ 授業中、下腹部を押 さえながら担任に	「おしっこ～」			○								
⑥ 制服に更衣後、担任 の所に来て	「ホックをとめてく ださいよ～」			○								
⑦ ごみ捨ての係活動を 終えて担任に	「ごみ捨て、終わっ たよ～」									○		

実践資料3 N. T児の生活スケジュール

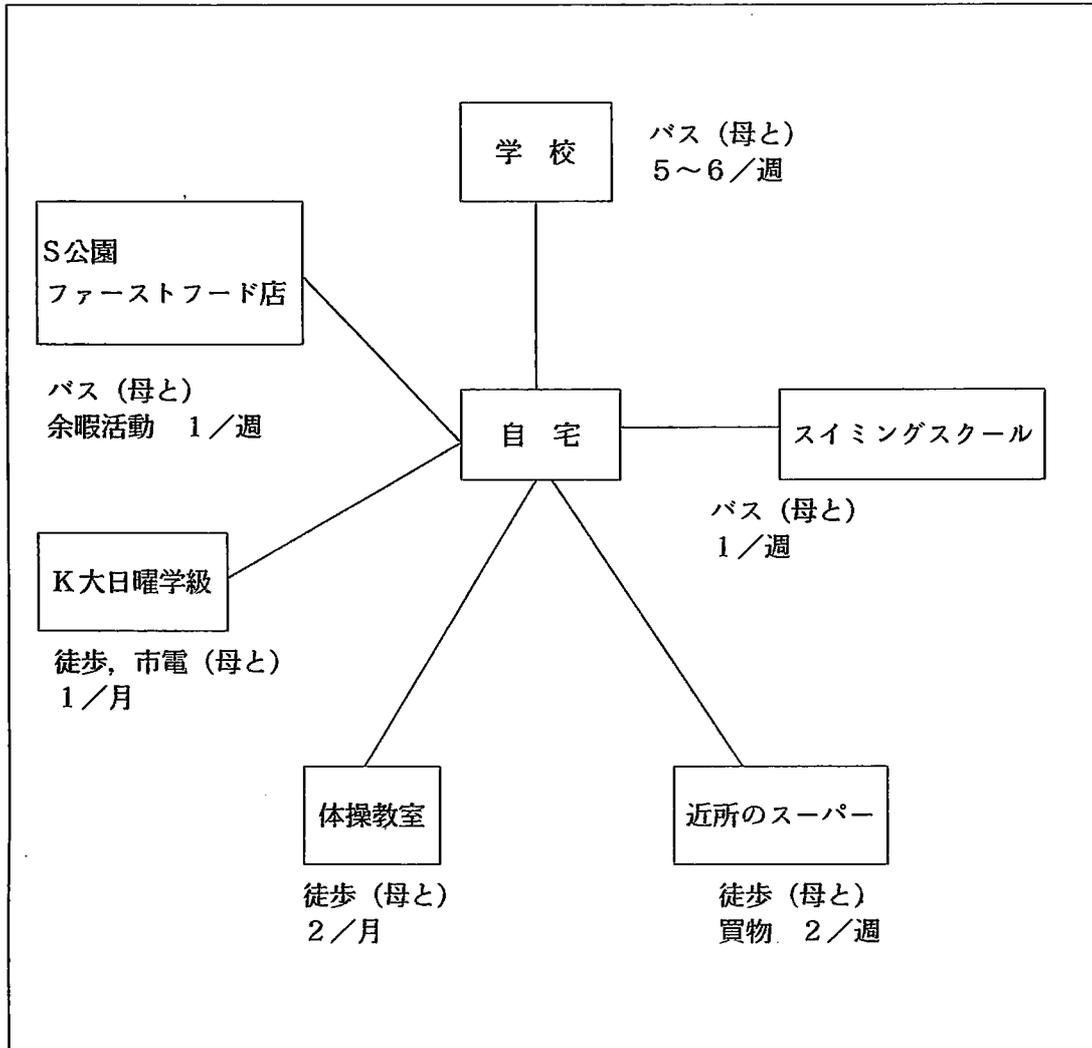
休日の生活スケジュール（平成9年5月実施）

記録者（母親）

時間	活動	現在の状態(援助の程度)	今後の希望
0:00			
1:00			
2:00			
3:00			
4:00			
5:00			
6:00			
7:00	起床, 洗面, テーブルふき	母親が言葉掛けをする。	
8:00	朝食, 歯みがき, 着替え	「テーブルをふきました。	・「お母さん, テーブルをふきました。
9:00		いいですか。」と言う。	いいですか。」と言わせた。
10:00	学校の宿題プリントをする。	親子で取り組む。	・一人で取り組めるようになっ
11:00			てほしい。
12:00	昼食		
1:00	市電に乗車	歩く方向が分かっている、	・一人でどんどん先に行か
2:00		電停までさっさと歩く。	ないようにしたい。
3:00	(K大日曜学級)	学生ボランティアと遊ぶ。	・学生や他の子供とかかわ
4:00	市電に乗車		ってほしい。
5:00	ファーストフード店で籽を買って食べる。		・ポテトが自分で買えるよ
6:00			うになっほしい。
7:00	夕食 入浴		
8:00	着替え		
9:00	歯磨き	仕上げは母親がする。	
10:00	就寝	言葉掛けがなくても寝る前の一	・寝付きが悪いので早く寝
11:00		連の活動を行うことができる。	てほしい。
12:00			

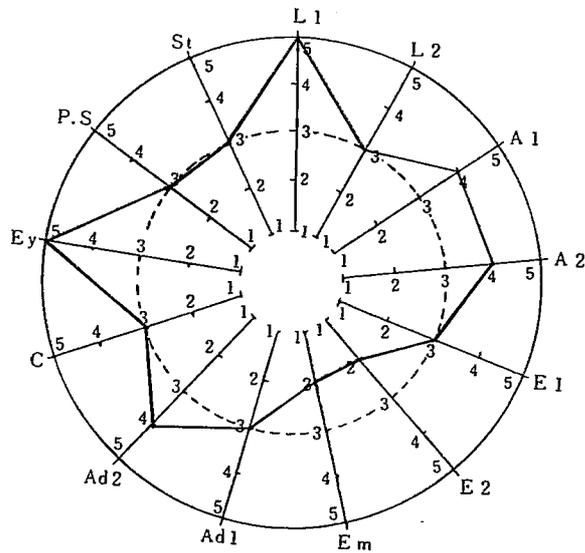
実践資料4 N. T児の生活地図

家庭（平成9年5月実施）



実践資料5 K. Y児の 諸検査実施結果

NAUDS～名大式自閉児発達尺度（平成8年8月実施）



- L 1 : 言語表現様式
- L 2 : 言語伝達機能と病理現象
- A 1 : 自発性とエネルギー
- A 2 : 目的的行動と統制
- E 1 : 固さと感情の分化
- E 2 : 感情の統制と連続性
- Em : 感情の理解と関係の連続性
- Ad 1 : 大人への働きかけと狭さ
- Ad 2 : 大人への働きかけに対する反応と狭さ
- C : 子供（仲間）との関係
- Ey : 視線
- Ps : 同一性の保持
- St : 常同行動

実践資料6 K. Y児の コミュニケーション・サンプル

1 学 校

記録者(担任)

氏名	K. Y	平成8年10月7日	機 能									
			意 図 不 明	要 求	注 意 喚 起	拒 否	説 明	情 報 提 供	情 報 請 求	感 情 表 出	慣 用 語	
所見	ときどき、担任に話し掛けてくるが、あまり楽しそうではなく、つぶやくような話し方だった。											
	場 面 や 状 況	言 動										
	① 教室の後ろにある教育実習生のネームプレートを見て	「6人来るねー。」						○				
	② 小雨が降っていたので、朝の運動は体育館であることを予想して	「きょうは体育館？」								○		
	③ 提出しようとした連絡帳の綴じひもが、ほどけていたので、担任に結んでもらおうと持ってきて	「ほらー、とれたー。」		○								
	④ 教室から見える路線バスを見ながら	「附属養護学校のところにもバスが通るね。」						○				
	⑤ 教育実習生とのお別れ会が長引いたら、下校時間が遅くなるのではと、不安になり	「10月17日のお別れ会は遅くなることもあるんでしょう。」		○								
	⑥ 机に座って、何か考えている様子で、突然教師に話しかける。	「きょう、読む時、8月25日だねー。」	○									

2 家 庭

記録者(母親)

氏名	K・Y	平成8年7月16日	機 能									
			意 図 不 明	要 求	注 意 喚 起	拒 否	説 明	情 報 提 供	情 報 請 求	感 情 表 出	慣 用 語	
所見	一日を通して、本児から発せられた言葉の中でよく言うようなことを記録した。											
	場 面 や 状 況	言 動										
	① そばに来た妹を見て母親に「だめよ」という答を期待して	「Hちゃん(妹)をたたいていい？」			○							
	② 泣いている妹に対してイライラし、泣きやんでほしくて。	頭をたたく (行動として)				○						
	③ テレビを見ている父親に(いつもの習慣として)	「お父さん、スプライトを飲む？」						○				
	④ 食事の準備をしている母親に対して「ダメ」という答を期待して	「お母さん、10月19日は学童保育にいてもいい？」			○							
	⑤ テレビを見ながら食事をしている弟に対して	「Tちゃん(弟)、1チャンネルにしてください。」 (好きなCMを見たくて)		○								
	⑥ 食事の準備中、電話がかかってきたため、支度の手を止めた母親に対し、早く電話を切ってほしい。	「都合により遅れることもあります。」(と言い泣きわめく)		○								
	⑦ (母親に)以前入所中に押して怒られたことを思い出して、わざと「ダメ」と言われたくて	「A学園に行ったら、非常ベルを押していい？」			○							
	⑧ 「庭に捨てられていた」という答を知っていてわざと何度もたずねる。	「お母さん、トム(猫)はどこで買ったの？」			○							

実践資料7 K. Y児の生活スケジュール

1 平日のスケジュール (平成8年9月実施)

記録者 (母親)

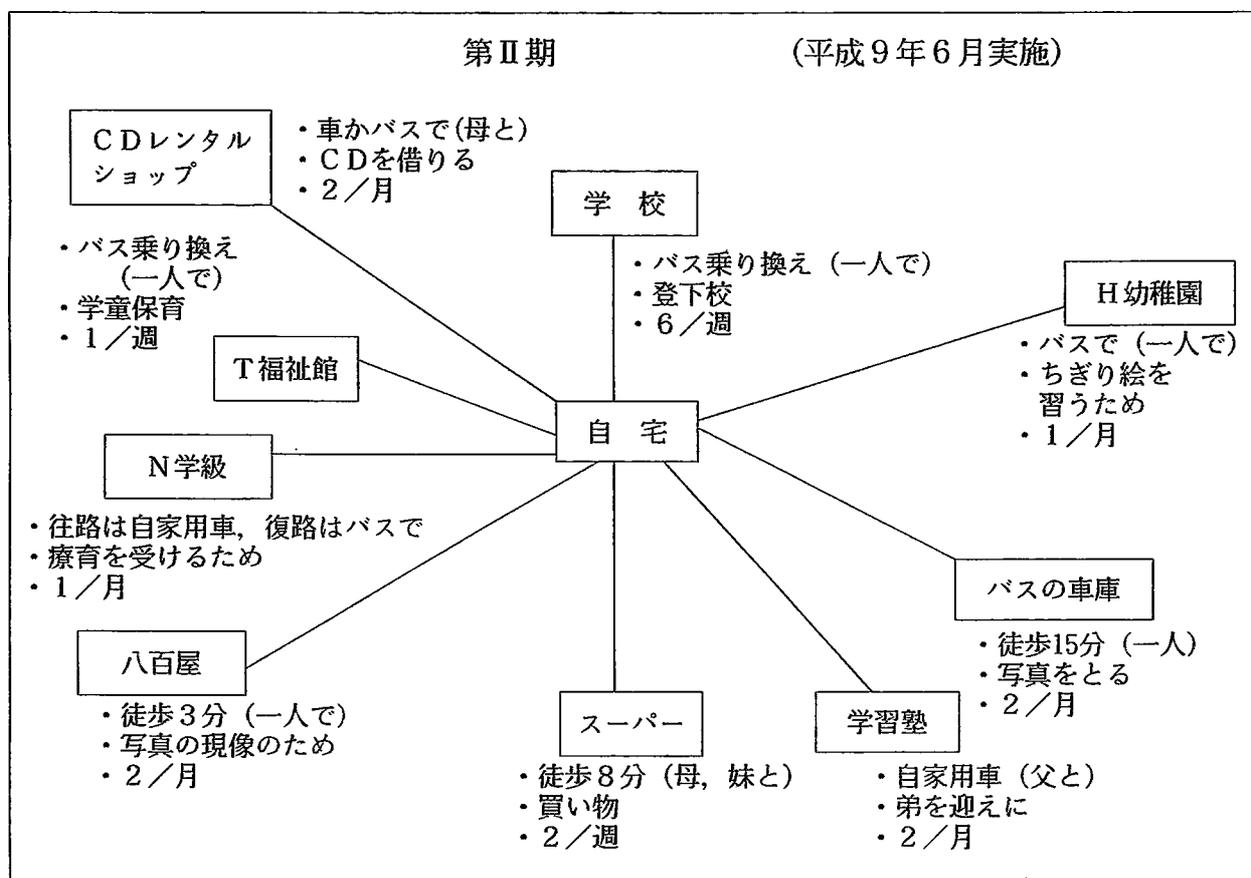
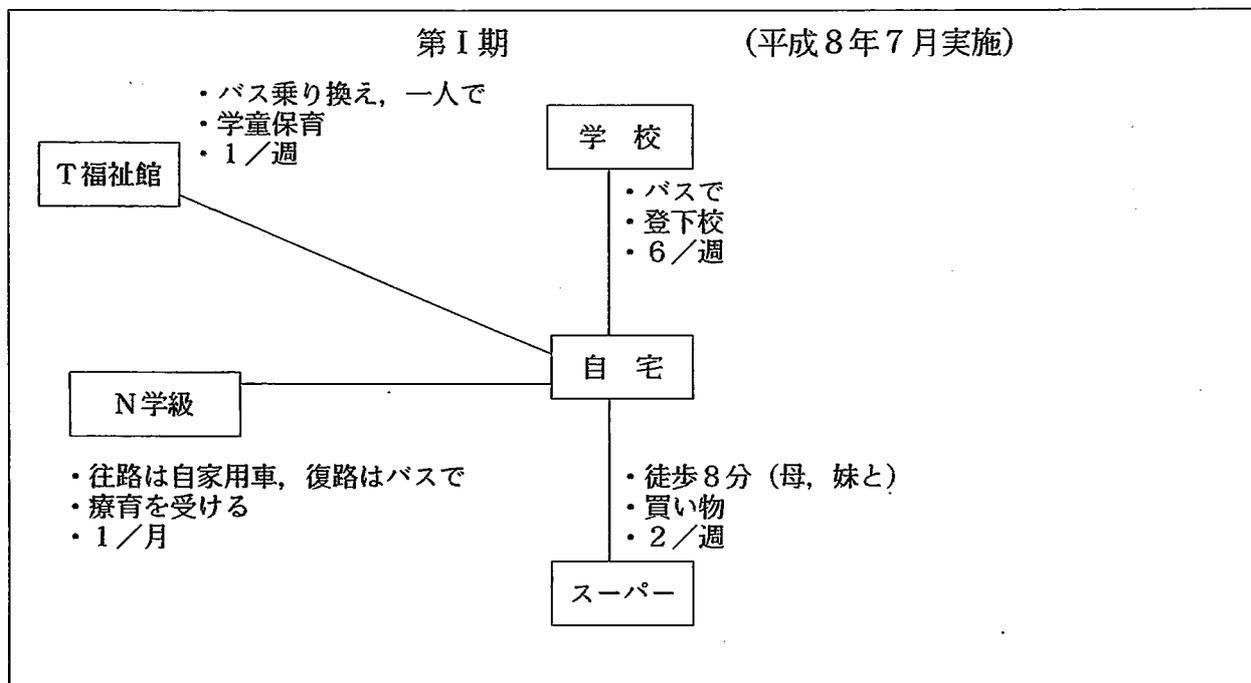
時 間	活 動	現在の状態 (援助の程度)	課 題
0:00			
1:00			
2:00			
3:00			
4:00			
5:00			
6:00	6:15 起床 ・顔洗い ・朝ごはん ・歯磨き ・着替え	・ほぼ自立している。	自分の衣服の整理ができるようになってほしい。
7:00	6:50 登校		
8:00			
9:00			
10:00			
11:00			
12:00	学校		
1:00			
2:00		・水曜は、14:30に下校後、バスに乗って学童保育へ。	
3:00			
4:00	4:20 下校 ・着替え ・洗濯物を取り入れて畳む。 ・風呂を掃除しお湯を入れる。 ・漢字を書く。 ・自由時間 (自室)	・ほぼ毎日する。習慣なので、自分で始める。 ・ときどきする ・ほぼ毎日する。 ・バスを見ていることが多い。	学校生活の様子を、自分から進んで話せるようになってほしい。
5:00	・庭の水まき (料理の手伝い)	・たまにする。 ・自分から台所にやってきて、母親に自分の好きなことを話しながら、少し手伝う。	バスが来ないと自室で大きな声を出す。
6:00	風呂 夕食	・自立している。	母親に電話が来ると、夕食が遅れるので嫌がる。
7:00	自由時間 (自室) ・火曜はテレビ番組の「どーんと〇〇〇」を見る。他の日は部屋で寝ていることが多い。 ・テレビゲームで遊ぶ。 ・牛乳パックでバスを作る。	・「どーんと〇〇〇」はビデオに撮っておき、後日見る。セットは自分です。 ・ときどきする。 ・ときどきする。	夕食の時間にバスを見に何度も立つ。
8:00			妹が泣いてもぐっところえてたたかないでほしい。
9:00	日記	・学校や家庭生活の出来事の順列だが自分で書ける。	
10:00	9:20頃 就寝		

2 休日の生活スケジュール (平成9年6月実施)

記録者 (母親)

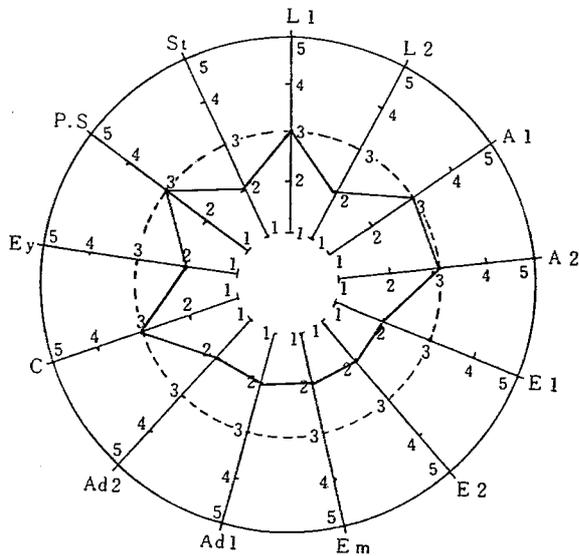
時 間	活 動	現在の状態 (援助)	今後の希望 (目標)
0:00			
1:00			
2:00			
3:00			
4:00			
5:00			
6:00			
7:00			
8:00			
9:00	9:00 起床 ・顔洗い ・朝ごはん	・8:00ごろ支度をしてバスの駐車場に写真を撮りに出掛けることもある。一人で行く。	
10:00	・歯磨き ・着替え		
11:00	自由時間 ・バスの駐車場に散歩 ・工作 ・テレビゲーム	・月一回は日曜学級に行つて、帰りは一人でバスで帰ってくることもある。	会話の内容がもっと広がってほしい。
12:00	昼食		
	自由時間		
1:00			掛かってきた電話に簡単でいいから対応できるようにしてほしい。
2:00	買い物 ・好きな菓子、文具を買う。 ・荷物を持つ。	・ほぼいつも母、妹と一緒に行く。	
3:00	自由時間 ・自室でゆっくりする。		簡単な料理ができるようになってほしい。 妹に八つ当たりしないでほしい。
4:00			
5:00	・料理の手伝い ・洗濯物を取り入れてたたむ。 ・風呂を掃除して、お湯を入れる。		集めている歌謡曲を部屋で聞くような習慣ができるといいが…。
6:00	入浴 夕食		
7:00			アイロン掛けが、できるようにしてほしい。
8:00	日記 漢字を書く。 父親に日記を読む。		
9:00	就寝		
10:00			
11:00			

実践資料8 K. Y児の生活地図



実践資料9 A. N児の諸検査結果

NAUDS～名大式自閉児の発達尺度（平成8年10月実施）



- L 1 : 言語表現様式
- L 2 : 言語伝達機能と病理現象
- A 1 : 自発性とエネルギー
- A 2 : 目的行動と統制
- E 1 : 固さと感情の分化
- E 2 : 感情の統制と連続性
- Em : 感情の理解と関係の連続性
- Ad 1 : 大人への働きかけと狭さ
- Ad 2 : 大人への働きかけに対する反応と狭さ
- C : 子ども（仲間）との関係
- Ey : 視線
- PS : 同一性の保持
- St : 常同行動

実践資料10 A. N児の コミュニケーション・サンプル

1 家 庭

記録者 (母親)

氏名	A・N	平成8年6月7日～18日	機 能								
			意図不明	要求	注意喚起	拒否	説明	情報提供	情報請求	感情表出	慣用語
所見	学校よりも自分の気持ち(要求)を伝える場面が多いことが分かる。										
場面や状況	言 動										
① テレビ番組「英語で遊ぼう」になると見たくない様子で	リモコンを探して母親の所まで持ってきてチャンネルを変えさせる。			○							
② 取ってほしいものがあるときなどに	母親に向かって手招きしながら「おんで(おいで)」と言う。			○							
③ 電子レンジが嫌いなので使おうとすると。	「やめて!やめて!」と抗議する。					○					
④ ノートと鉛筆があると、母親に人形の絵をかかせるが(一人のときは自分でかく)、○をかいて顔からかき始めるところを途中で順番を変え、手をとばすと。	紙やペンを持って行き、母親の手をペンの所に持って行く。 「手,手」と言ってかくように催促する。			○							
⑤ 祖父母宅へ出掛けていて、早く自宅に帰りたいとき。	玄関で待つ。それでも駄目なら荷物(母親のバッグなど)を持って母親のスカートを引っ張る。			○							
⑥ おもちゃのままごとセット(じゃがいもやプリンと皿)を持ってきて、母親に対して。	手を合わせさせ、(言つと)母親の唇を触る。(指さす)			○							
⑦ 「いただきます」のあいさつを催促するので、母親がしてはみるものの、本人が考えているものと違うと。	何度も母親にさせる。			○							
⑧ 母親を誘って洗面所に行つて。(一緒に手を洗いたいとき?、手を洗ってほしいとき?)	「手」と一言言う。			○							

2 学 校

記録者 (担任)

氏名	A - N		平成8年6月7日～25日		機能						
	場面や状況	言動	意図不明	要求	注意喚起	拒否	説明	情報提供	情報請求	感情表出	慣用語
所見	自分の気持ちを伝えようとするのは、要求場面に限定されていることが分かる。										
① 排せつ後、ブルマースが内側にめくれているが、気持ちが悪いにもかかわらず、自分ではどうすることもできないときに。	教師に体を寄せて、ブルマースを指さす。			○							
② 髪を結んでほしいときに髪止め(ゴム)を手にして	教師のひざの上に後ろ向きに座ってくる。			○							
③ チューブブランコの近くに教師がいて、乗せて押してもらいたいときに。	そでを引っ張る。			○							
④ チューブブランコがひもで固定されていて遊べないときに、あるいは自分でほどこうとしてもほどこけないときに(近くにいる教師と目が合えば)	ひもの所に教師の手を持っていく。(クレーン行動で)			○							

実践資料11 A. N児の生活スケジュール

1 平日の生活スケジュール (平成8年7月実施)

記録者 (母親)

時刻	活動	現在の状態 (援助)	今後の希望 (目標)
0:00 1:00 2:00 3:00 4:00 5:00 6:00		月に1回ぐらい夜中に起きることがある。	
7:00	起床, 洗面, 朝食 着替え	起きてから布団の上で遊んでいることが多く, 時間にゆとりがなくなる。	朝の支度を時間内に自分でできるようになってほしい。
8:00	登校 着替え	繰り返し言葉掛けするとあいさつをする。 脱いだ衣服は床に置いたままだったり, 畳み方が雑だったり, 後始末が不十分である。	教師と目が合ったら自分からあいさつをしてほしい。 脱いだ衣服は机に置き, ゆっくり丁寧に畳んでほしい。
9:00	朝の会	呼名に返事をして答えたり, 友達と一緒に活動したりするが, 自発的な活動や友達へのかかわりがほとんどない。	教師の動作を見ながら曲に合わせて体を動かしたり, 教師や友達からの働き掛けに対して自分からスキップに応じたりしてほしい。
10:00			
11:00	[授業]	課題の意味が分からずにどうしたらいいのか戸惑うことがときどきある。	教師側は伝え方の工夫をするが, 本人自身も指示理解の力を少しでも高めてほしい。
12:00	給食	牛乳など好き嫌いがあるが, 頑張って少しずつ自分から食べる。	交互に食べたり, 食器を持って食べたりできるようにしてほしい。
13:00	歯磨き	口は水ですすぐものの, 歯磨きをせずに遊びに行くことが多い。	自分なりにし, 教師に仕上げをしてもらってから遊びに行くようにしてほしい。
	昼休み (着替え)	一人遊びが多い。また, 連絡帳を早くもらいたくて教室で待っていることがある。	戸外で元気よく遊んでほしい。また, 教師や友達とのかかわりを少しでも持ってほしい。
14:00	下校 帰宅, 着替え, おやつ	自分でできる。 洗濯機や洗面所, 台所など水のある場所で遊んでいる。	コップを洗ったり, 髪を洗ったりと, 水はねなどもあるが上手になればいいのでは, と思っている。
15:00	内遊び		
16:00	買い物	学習の場として取り組み中。	
17:00	外遊び	気ままに出掛けてしまう。	遊びに出掛けることを教えてもらいたい。
18:00	夕食	他人の敷地に入ることがある。 食事時の姿勢がよくない。	途中離席しない。また, はしの握り方を覚えてほしい。
19:00	テレビ, 入浴		
20:00	自由遊び		
21:00	就寝	絵本, 積み木, ブロック, ひもなどで遊ぶ。	片付けを工夫したい。
22:00			
23:00			

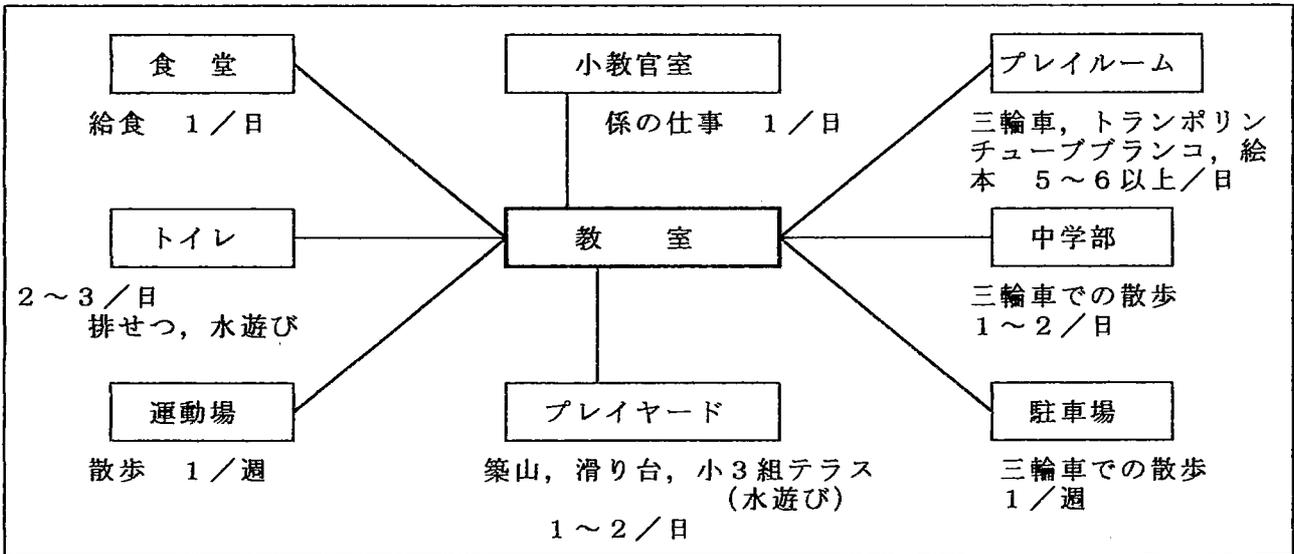
2 休日の生活スケジュール (平成 8 年 7 月実施)

記録者 (母親)

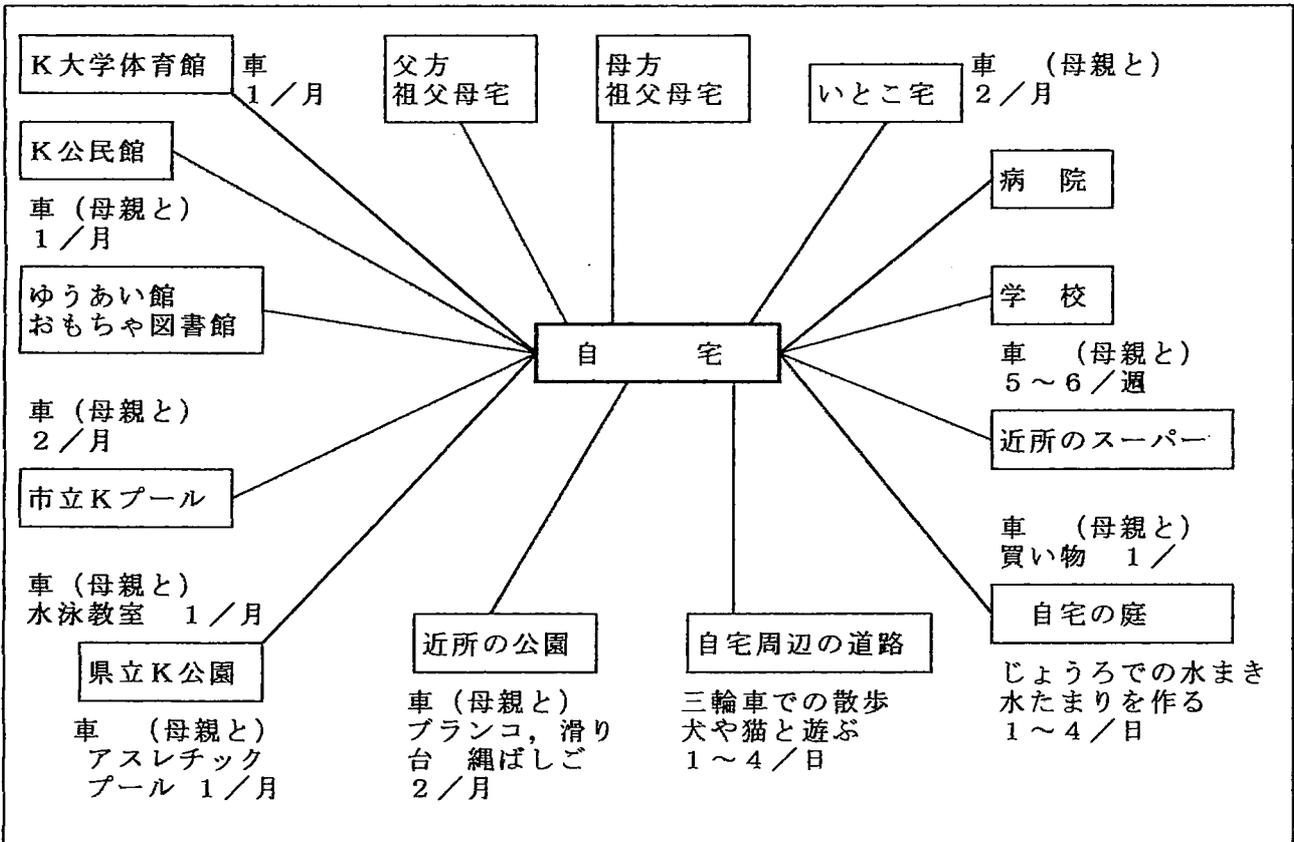
時刻	活動	現在の状態 (援助)	今後の希望 (目標)
0:00			
1:00			
2:00			
3:00			
4:00			
5:00			
6:00	起床		
7:00	洗面 朝食		
8:00			
9:00	自由遊び	第 2 土曜 鴨池プール 第 2 土曜 祖父母宅	家にいるときの時間を指遊び、ボールけり、お手伝いなど、一緒に遊べるものにしたい。
10:00	又は 外出	自由遊びは一人遊びが多い。 (ひもやブロックなど)	
11:00			
12:00	昼食		
13:00	外出	第 1, 3 土曜 おもちゃ図書館	出掛け先を考えると決まったものが多く、新しい場所、感動する場面がないので、休日のイベント?を考えてみたい。
14:00	又は 自由遊び	第 2, 4 日曜 ボランティア (大学生) と遊ぶ	
15:00		第 1 土曜 3 日曜 親戚宅へ出掛けることがある。	
16:00			
17:00	帰宅, 外遊び		
18:00	夕食		
19:00	テレビ		
20:00	お風呂, 歯磨き		
21:00	自由遊び 就寝		
22:00			
23:00			

実践資料12 A. N児の生活地図

1 学校 (平成8年7月実施)



2 家庭 (平成8年7月実施)



※ 母親の感想

生活地図をかいてみると、Nが一人で行ける所が庭と道路だけなのにびっくりしました。ほとんどが車に乗せられて連れて行く場所でした。